

調布市の社会教育が目指す将来像

1 委員意見

○宮下副議長・田村委員案

現行の将来像及び説明文維持

○荒井委員案

【将来像】

「学びで心満たされ生まれた笑顔が 夢と希望にあふれた彩りある社会を築く」

【説明文】

すべての市民がいきいきと学ぶことでまちづくりの主役となれるように、また学びを通じた人との繋がりが、地域の輪へと広がるようなまちを目指し、社会教育の環境を整備していきます。繋がりが広がる笑顔の輪が、ともに地域の課題を考えより良いまちづくりへと導くための力となるような社会教育を目標に、市民と行政が将来像を共有し、ともに実現に向けて取り組んでいきます。

○西牧委員案

【将来像】

「学びが広がり、人がつながり、みんなの願いでつくる街」

【説明】

「学びが広がり」は、これまで社会教育の活動に参加してこなかった人たちにも参加してもらうことを目指すということ

「人がつながり」は、学びを通してコミュニティー作りをすること

「みんなの願いが届く」とは、まちづくりの原点は「ほんとうは、こんな街にしたいんだ」という、諦めずに理想を追求する姿勢を持ち続けることだと思いますので、

そういう市民の願いを、人とのつながりと学びで言葉にして見える形にして、しかもその願いを実際の政策に活かしてくれる市を目指すということです。

○毛利委員案

【将来像】

「学びを通し 市民による市民のための 社会づくり・地域づくりに貢献する」

【説明】

将来像について、毛利は、「学びを通して 社会に参画する」という要素を入れたいと考えています。

昨今「学び」のイメージは変わっており、一方的に知識を取得するような「個人的な学習」のイメージ(たぶん生涯学習もこの「個人的な学習」に近いと思います)は、もはや小中学校でも通用しなくなっており、繋がりながら意見を交わす創発的な活動が求められています。また、社会教育の本質的な意義として、学ぶための仕組みや運営を市民自身で行うことで醸成される民主的活動、つまり、市民による市民のための社会づくり・地域づくりは、まさに今必要な活動だと思っています。

2 事務局たたき案

【将来像】

ともに学び ともに創る 社会教育が彩るまち 調布